

# 笛吹市探訪

## 『曾根丘陵の拠点集落』

### 一の沢遺跡



一の沢遺跡出土国指定重要文化財・山梨県立考古博物館蔵、写真提供 山梨県立考古博物館

スポットガイド・エリアマップで紹介した遺跡を尋ねるシリーズとして今回は平成23年度に刊行されたスポットガイド「一の沢遺跡」を紹介します。

#### 重要文化財に指定された土器群

一の沢遺跡は、縄文時代前期末（5500年前）から縄文時代中期末（4500年前）を中心として栄えた大集落遺跡で、境川町小黑坂の北西に向かう緩斜地、狐川左岸に広がっています。

過去5回の発掘調査において、多くの土偶や土器が発見されてい

ますが、中でも県教育委員会が実施した「4号住居跡」「56号土坑」の発掘調査では、縄文時代中期頃の「井戸尻式」と呼ばれる深鉢型で豪華な土器文様を特徴とする土器群が様々なバリエーションで出土しています。この土器群は、縄文時代中期の土器研究の指標とされ、国の重要文化財に指定されています。

#### 第5次調査結果から

一の沢遺跡は直径100mほどの二つの隣接する環状集落から成り立っています。これまでに調査された竪穴住居跡の多くは縄文時代中期のものでしたが、平成20年度に実施された市浄・配水場建設に先立つ発掘調査では、縄文時代



一の沢遺跡

前期末のものも確認されています。特に「十三菩提式」と呼ばれる細い竹を割った断面を利用



一の沢遺跡土器出土状況

用して文様を付けた土器や積迦堂遺跡で発見された「積迦堂Z式」という土器片が目立ちました。

この場所は、一の沢遺跡のなかでも比較的標高の高いところに位置し縄文時代中期の土器や土偶、住居跡も見つかっています。

また、調査の結果、縄文時代前期末の土器片が多く出土する傾向があることから、この時期の住居も近くにあったと考えられます。

#### 食べ物などから分かる古代のくらし

縄文時代の人々は狩猟による動物食が中心であったと思われるがちですが、実はドングリやトチの実といった堅果類を中心とした植物食、特にそれらをすりつぶして粉にしたものが中心であったようです。

一の沢遺跡と同じく縄文時代前

期末の集落遺跡として知られる花鳥山遺跡では、前述のような固果類のほか、栽培植物であったエゴマの塊りが出土しています。一の沢遺跡においても、植物栽培が行われていたものと思われます。

一の沢遺跡は、眼前に甲府盆地が広がり、背後に奥深い御坂山地を控えています。涼しく、風通しのよい地形における栽培植物と、御坂山地の大きな恵みを背景に豊かな文化が育まれていったのでしよう。

